

2021年3月期 決算概要

長瀬産業株式会社
2021年5月11日

目次

連結損益計算書	3
地域(国内・海外)別売上高	4
セグメント別売上高 2期比較	5
セグメント別営業利益 2期比較	6
連結貸借対照表	7
連結キャッシュ・フロー	8
2022年3月期 業績見通し	9
セグメント別 業績見通し	10
配当状況	11

連結損益計算書

- 売上高：第1四半期において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が自動車関連ビジネスを中心に相当程度あったものの、第2四半期以降のテレワーク需要等を背景としたエレクトロニクス関連ビジネス・樹脂ビジネスの回復、更に前第2四半期連結会計期間に買収したPrinovaグループの売上が当期は全期間にわたり反映されていることにより、増収
- 営業利益：DX推進等の持続的成長に向けた投資は増加したものの、Prinovaグループの高い収益性が寄与したことにより売上総利益が増加し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた活動自粛による費用減少等もあり、増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益：子会社株式の譲渡や政策保有株式の売却に伴う利益を計上したこと等により、増益

(単位:億円)

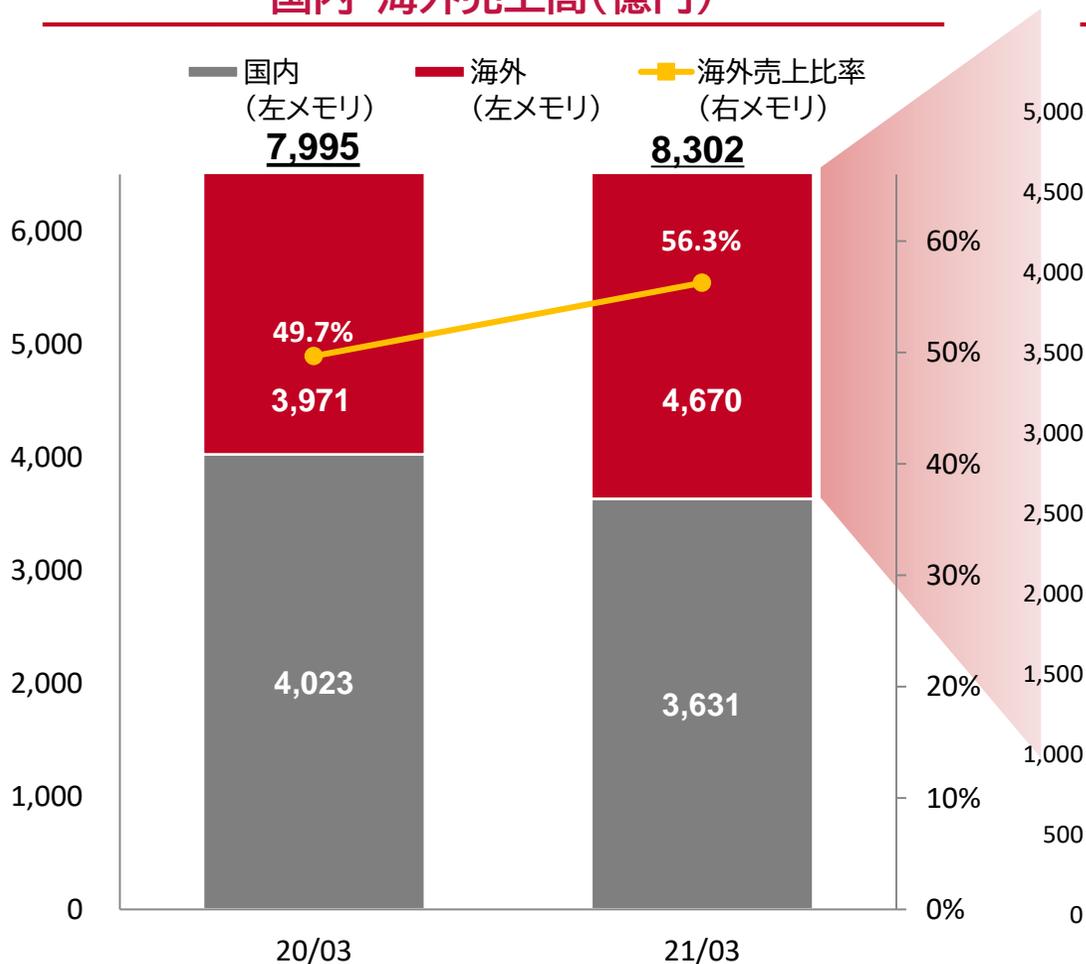
	20/03	21/03	増減額	前期比	通期見通し (3Q修正)	計画比
売上高	7,995	8,302	+ 306	104%	8,110	102%
売上総利益	1,049	1,146	+ 96	109%	1,120	102%
<利益率>	13.1%	13.8%	+0.7%	—	13.8%	—
販売費及び 一般管理費	857	926	+ 69	108%	920	—
営業利益	191	219	+ 27	114%	200	110%
経常利益	190	228	+ 37	120%	210	109%
親会社株主に帰属する 当期純利益	151	188	+ 36	124%	170	111%
US\$レート (期中平均)	@ 108.7	@ 106.1	@ 2.6円高		@105.0	—
RMBレート (期中平均)	@ 15.6	@ 15.7	@ 0.1円安		@ 15.5	—

【為替変動による21/03期実績 売上高および営業利益への影響額】
 売上高:約△36億円 営業利益:約△0億円

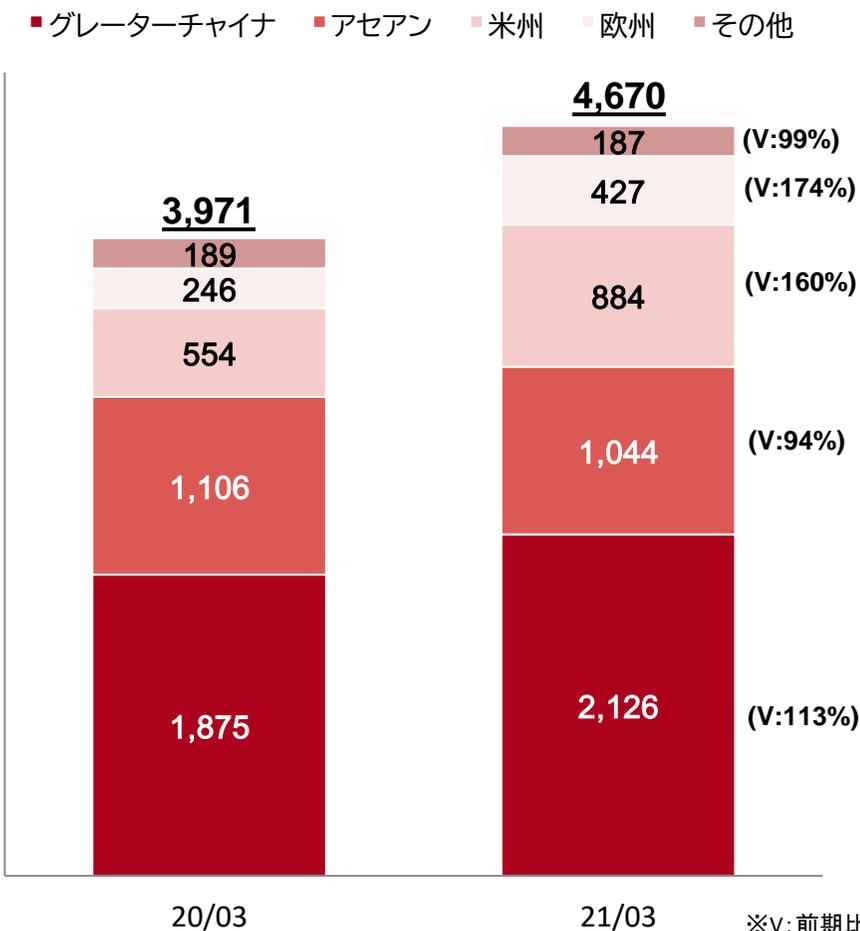
地域(国内・海外)別売上高

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、特に国内およびアセアンにおける売上が減少したものの、Prinovaグループの売上が加わったことにより、欧米地域の売上が大きく増加（海外売上比率56.3%）
- グレーターチャイナは、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を超える売上で着地

国内・海外売上高(億円)



海外売上高の地域別内訳(億円)

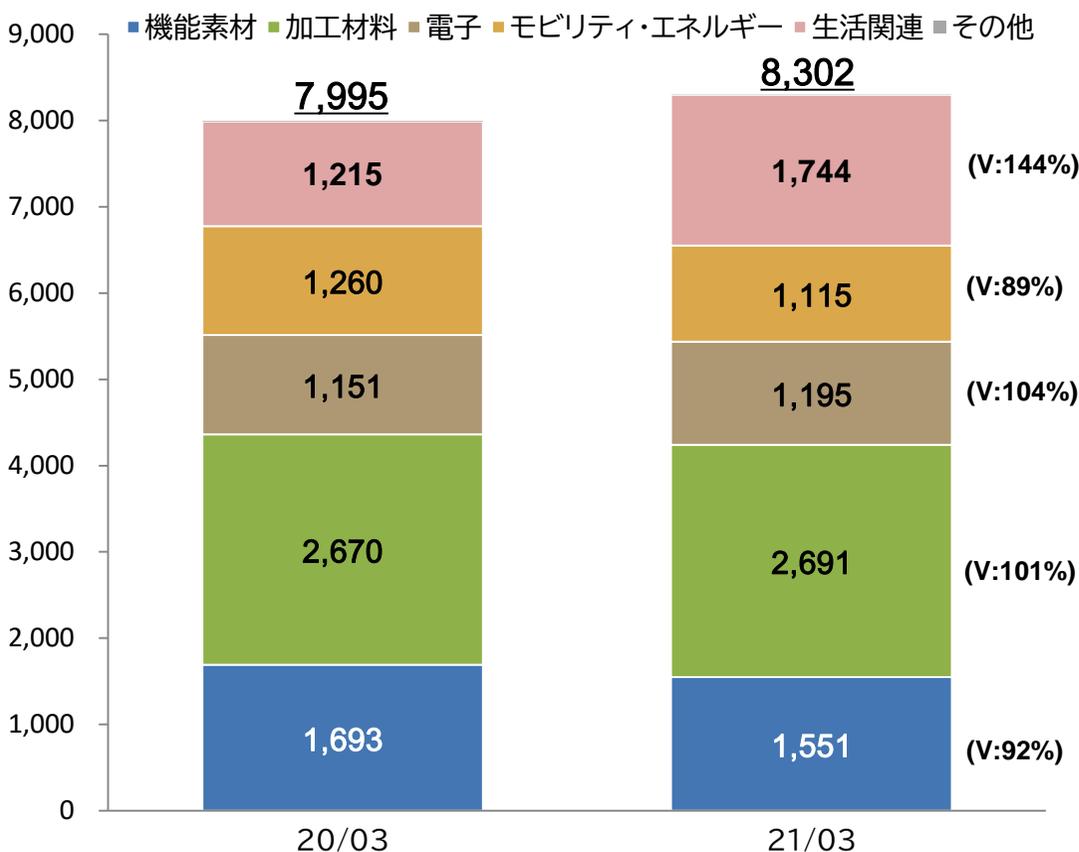


※v: 前期比

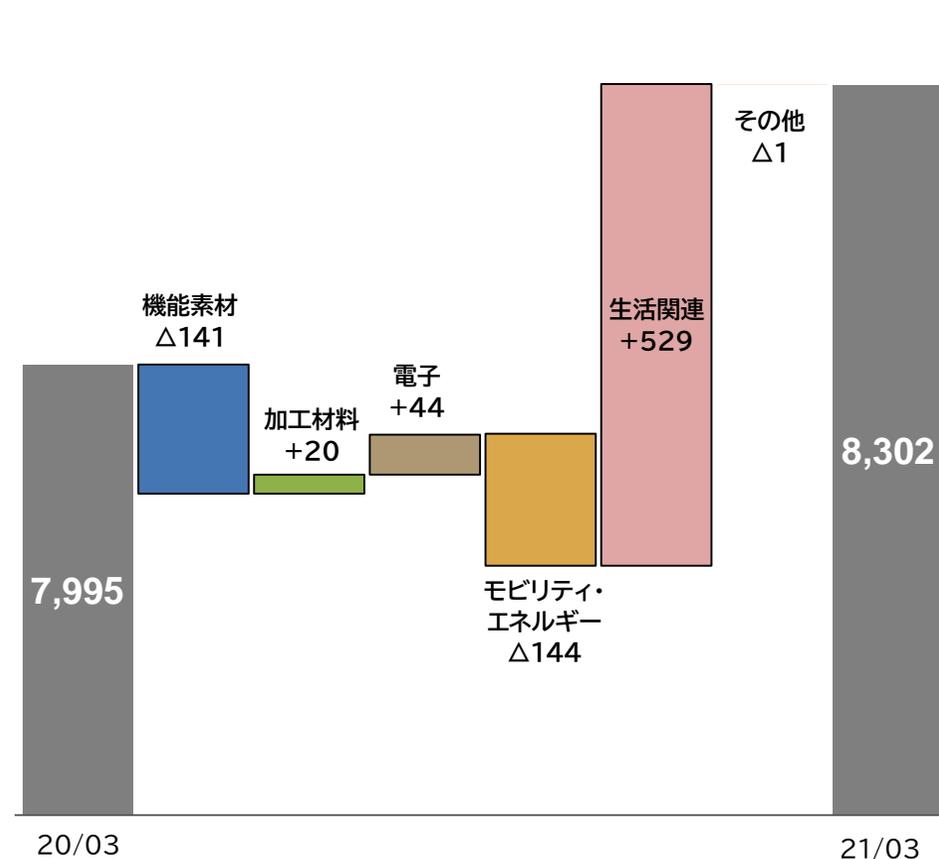
セグメント別売上高 2期比較

- 機能素材/モビリティ・エネルギー：特に上期における自動車生産台数減少の影響を受けて、減収
- 生活関連：新型コロナウイルス感染症拡大の影響による需要の減少等により、トレハ®等の食品素材(Prinovaグループ除く)やAA2G®等の香粧品関連素材の売上は減少したものの、Prinovaグループの売上が加わったこと等により、増収

セグメント別 売上高 (億円)



セグメント別 売上高 増減(億円)

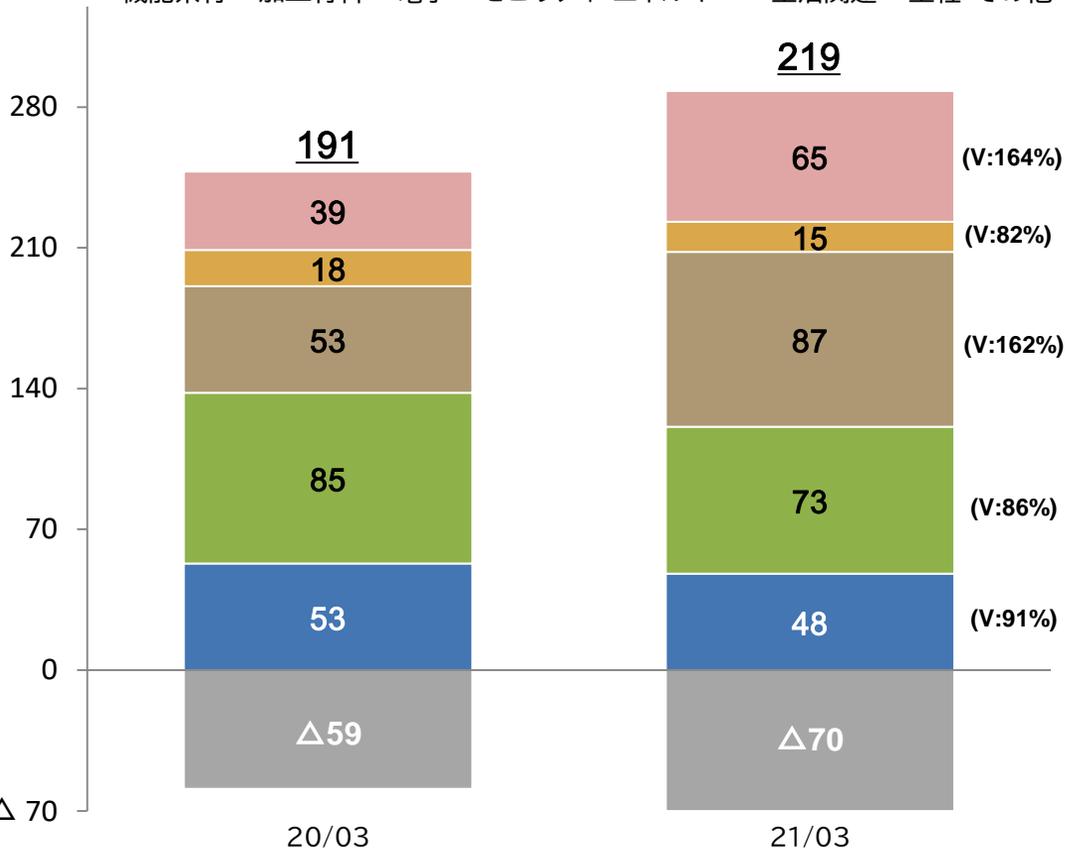


セグメント別営業利益 2期比較

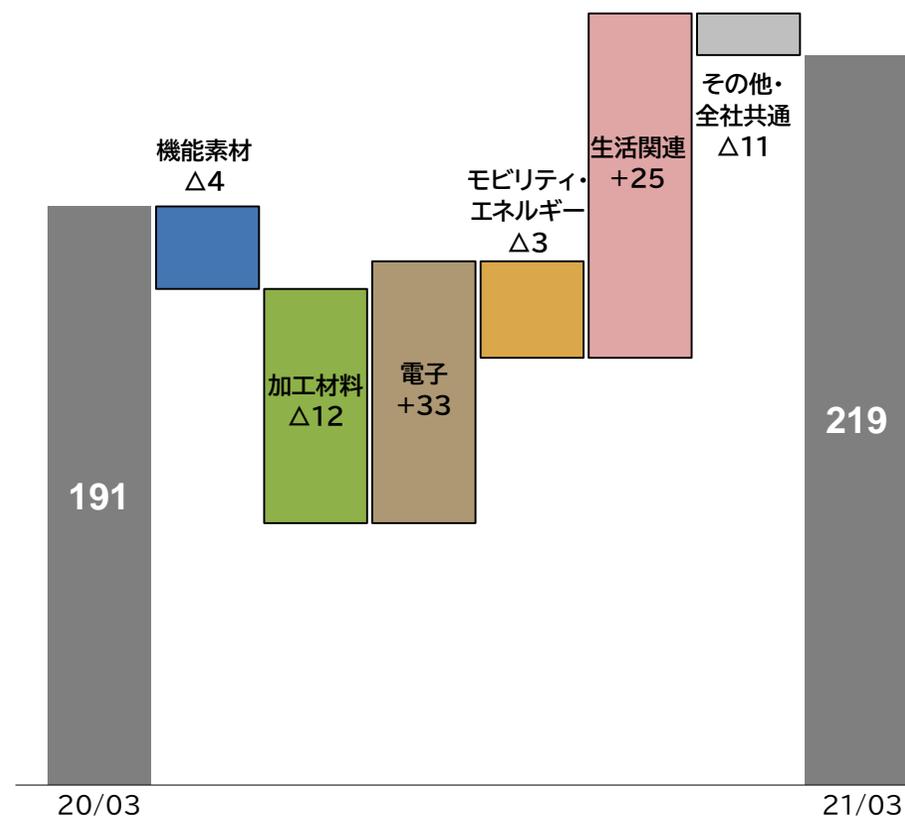
- 加工材料：樹脂ビジネスの需要の回復、市況価格の上昇等の影響により増収であったものの、主に情報関連印刷材料ビジネスの市況下落による収益性悪化の影響等により、減益
- 電子：増収に加えて一部の製造子会社の収益性の改善等により、増益

セグメント別 営業利益 (億円)

■ 機能素材 ■ 加工材料 ■ 電子 ■ モビリティ・エネルギー ■ 生活関連 ■ 全社・その他



セグメント別 営業利益 増減(億円)



連結貸借対照表

- 売掛金やたな卸資産の増加、保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加等により資産は291億円増加
- コマーシャル・ペーパーの減少があったものの、買掛金の増加等により、負債は39億円増加
- 自己資本比率は、前連結会計年度末の49.9%から1.6ポイント増加し、51.5%

資産

	20/03	21/03	増減額
流動資産	3,793	4,017	+ 223
現金・預金	514	492	△ 21
受取手形・売掛金	2,211	2,425	+ 214
たな卸資産	957	972	+ 15
その他	111	126	+ 15
固定資産	2,321	2,388	+ 67
有形固定資産	746	708	△ 37
無形固定資産	724	645	△ 79
投資・その他の資産合計	849	1,033	+ 183
投資有価証券	761	937	+ 175
その他	88	96	+ 7
資産合計	6,114	6,405	+ 291

負債及び純資産

(単位:億円)

	20/03	21/03	増減額
流動負債	2,004	2,061	+ 57
支払手形・買掛金	1,082	1,199	+ 116
借入金・CP・1年内償還予定の社債	618	530	△ 87
その他	302	331	+ 28
固定負債	978	960	△ 17
長期借入金・社債	726	645	△ 81
退職給付に係る負債	136	132	△ 3
その他(繰延税金負債等)	115	182	+ 67
負債合計	2,982	3,021	+ 39
純資産	3,132	3,384	+ 251
株主資本	2,723	2,847	+ 124
その他の包括利益累計額	329	449	+ 119
- 評価変動	326	435	+ 109
- 為替換算調整勘定	10	10	△ 0
- その他	△ 6	3	+ 10
非支配株主持分	79	87	+ 8
負債及び純資産合計	6,114	6,405	+ 291

キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	21/03	主な内訳	20/03
営業活動によるキャッシュ・フロー	203	税金等調整前当期純利益 +292 減価償却費・のれん償却 +133 運転資金の増減 △100 法人税等の支払 △92	330
投資活動によるキャッシュ・フロー	26	連結範囲の変更を伴う子会社株式売却による収入 +80 投資有価証券の売却による収入 +60 有形・無形固定資産の取得による支出 △95 投資有価証券の取得による支出 △9	△ 492
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 258	コマーシャル・ペーパーの純減少 △220 配当金の支払 △54 自己株式の取得による支出 △9 長期借入による収入 +43	243
現金及び現金同等物に係る換算差額	9		△ 18
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△ 19		63
現金及び現金同等物の期首残高	504		440
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-		1
現金及び現金同等物の期末残高	485		504

2022年3月期 業績見通し

- 新型コロナウイルス感染症による世界経済への影響は懸念が残るものの、各国においてワクチン接種が一定程度進み、2021年度の下半期以降は経済活動が正常化することを見込む
- 自動車関連ビジネスは半導体不足による生産台数への影響が懸念されるが、2020年度下期以降の回復基調は続くものと想定
- 将来の成長に向けた研究開発・DX関連投資は継続して実施するが、新型コロナウイルス感染症の影響による活動自粛が一定程度継続すると見込まれるため、2021年度上期は2020年度並みの経費執行を見込む

(単位:億円)

	21/03実績	22/03見通し	増減額	前期比
売上総利益※	1,146	1,200	+53	105%
販売費及び一般管理費	926	970	+43	105%
営業利益	219	230	+10	105%
経常利益	228	240	+11	105%
親会社株主に帰属する当期純利益	188	180	△8	96%
US\$レート (期中平均)	@106.1	@104.0	@2.1円高	—
RMBレート (期中平均)	@15.7	@15.4	@0.3円高	—

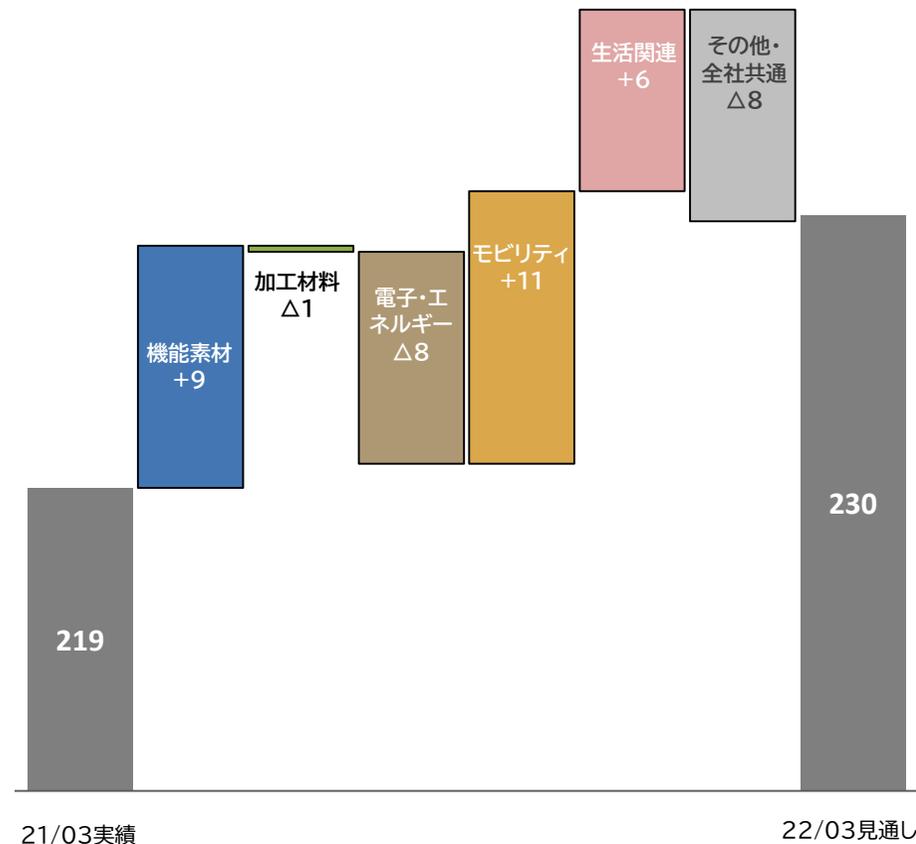
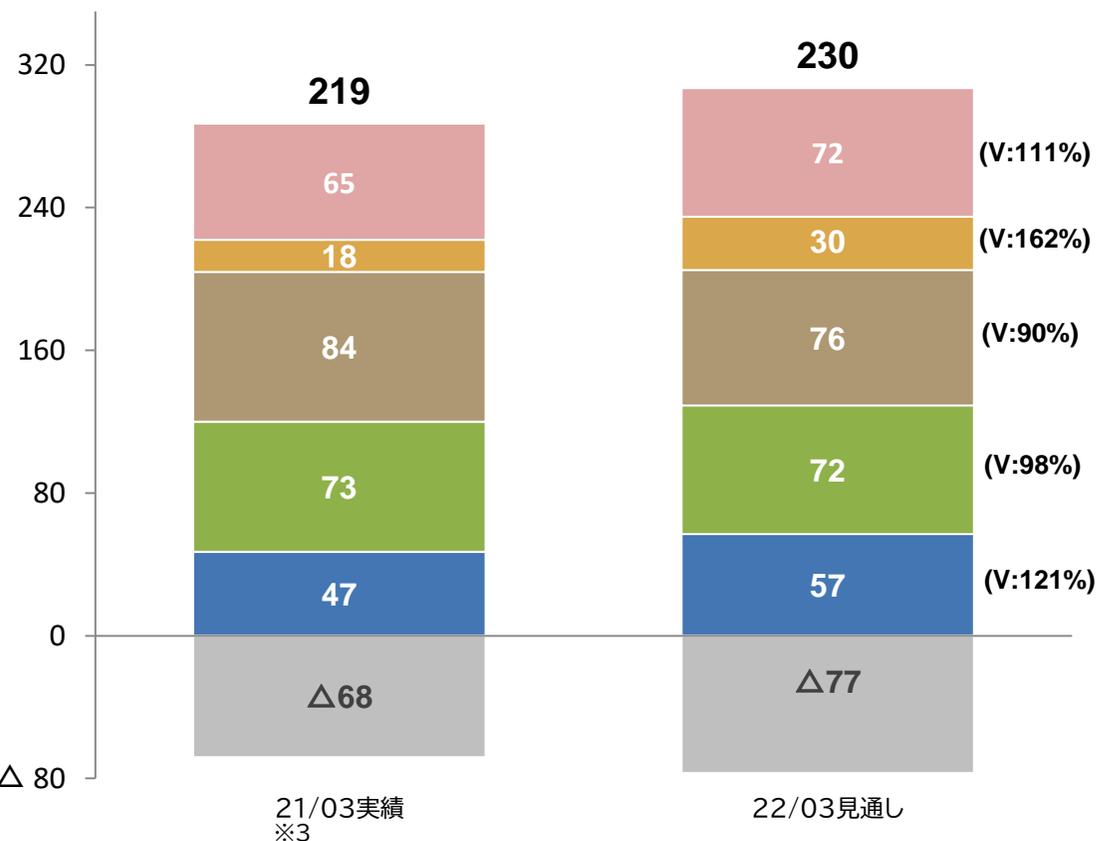
※2021年度より公表連結業績予想については、従来の売上高に代え、売上総利益を開示いたします

セグメント別 業績見通し

セグメント別 営業利益見通し(億円)

セグメント別 営業利益見通し増減(億円)

■機能素材 ■加工材料 ■電子・エネルギー ※1 ■モビリティ ※2 ■生活関連 ■全社・その他



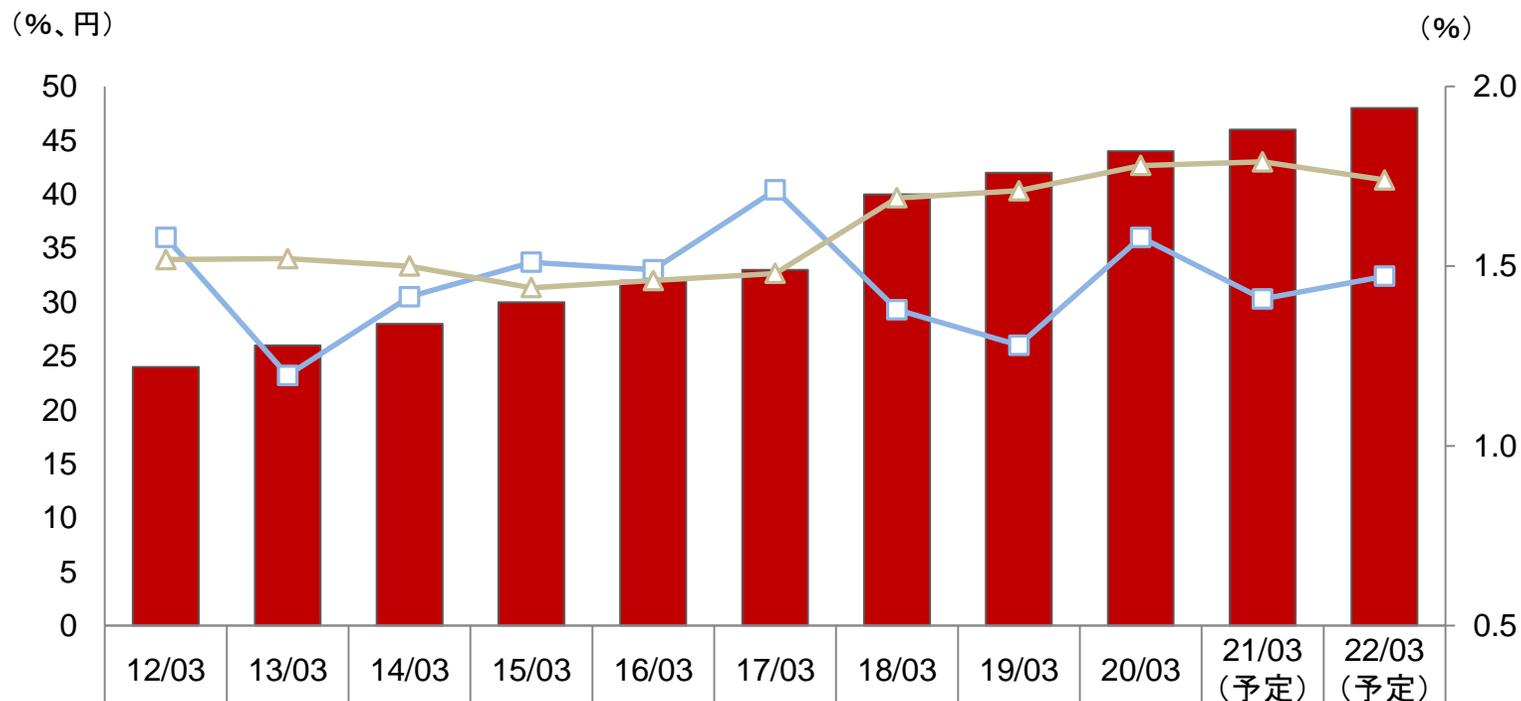
※1 電子セグメントは2021年4月1日より電子・エネルギーセグメントに名称変更しております。

※2 モビリティ・エネルギーセグメントは2021年4月1日よりモビリティセグメントに名称変更しております。

※3 2021年4月1日付けの組織変更に伴い、事業セグメントの区分方法を変更しており、2021年3月期の実績については変更後の区分方法により作成しております。

配当状況

- 当期:中間配当金22円、期末配当金24円の年間配当金46円を予定
- 来期:中間配当金24円、期末配当金24円の年間配当金48円を予定(12期連続増配見通し)



※1 18/03期の配当金には、特別配当金5円を含んでおります。
 ※2 21/03 期の期末配当金は、2021年6月開催予定の第106回定時株主総会に附議予定です。



Bringing it all together

<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2021年5月11日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。